

驚き 桃の木 水行祭!

昨年末に開催した、冬の風物詩【冬至水行祭・ほしまつり】。第十四回目を迎えた今年度の水行祭も「Yahoo! ニュース」で取り上げられました。

Yahoo! JAPAN といえば、日本を代表するポータルサイトの1つです。全体の月間アクセス数はPC版で244億9600万PV、スマートフォン版で500億5900万PVにもなります。特にトップページのYahoo! ニュースや、Yahoo! トピックスの関連リンクに掲載されれば、多くのエンゲージメントを獲得することもできます。

ちなみに、掲載されるには大きく2つの視点で決められているので、1つ目は「公共性」。公共性とは災害、政治、経済、国際問題など硬めのジャンルを指します。そして2つ目は「社会的関心」。社会的関心とは、スポーツ、エンタメなど柔らかめのジャンルを指します。この2つのポイントでニュースを選出しているために、公共性だけ、社会的関心だけで、Yahoo! ニュースに掲載されることはないと言います。

また、ついでに申し上げておくと、2つの視点を踏まえた上で、更に7つのポイントで記事を選別しているとのこと。1つ目「即時性」。

時事性」。2つ目「真実性・信頼性」。3つ目「新奇性」。4つ目「公益性」。5つ目「認知度」。6つ目「表現力」。7つ目「品位」。以上7つのポイントを踏まえて、毎日投稿される5000を数えるニュースの中から、1つ1つ振り分けて、Yahoo! ニュースに選ばれ掲載されるという流れのようです。

つまり、結構厳しいチェックをクリアしたニュースが取り上げられるという事なのです。それだけ信頼度の高いYahoo! ニュースに一度ならず、二度までも掲載された【冬至水行祭・ほしまつり】。存じない方もおいでかと思えますので、ついでに申し上げておくと、1度目に取り上げられたのは4年程前になりますが、その時は「Yahoo! トップニュース」として、取り上げられたのです。

●【車イスで水行に臨む!!】

もちろん地元の新開各紙でも取り上げていただきました。特に『北陸中日新聞』には、第一面に大きく掲載された上に、富山県の地方ニュースにも掲載されるなど、大々的に報道してくださいました。今年度の水行祭で、特にクローズアップされた義足の男性ですが、フンドシの装束に身を包み、車イスに座ったまま水行に臨まれました。

参加表明された時は驚きました。「去年の水行祭を拝見させていただき感動しました。来年の水行は自分も参加させて頂こうと心に決めてい

た。もし可能なら私も水行に臨ませてください」と、胸打たれる参加動機をうかがえば、断る理由がありません。全国広しといえども、車椅子で水行に臨まれた方は、この方が初めてなのではないかと思えます。

今年度は『東京パブリック』が開催されました。身体的ハンディを抱えた方の真つ直ぐな背中では、見る者の心を鷲掴みにして、勇気と感動のパワーを私達に与えてくれます。

この方だけではありません。参加者の皆さまお一人お一人は、本当にドラマのような思い抱いて、水行に臨まれました。

前日から寒波に見舞われた北陸は、サンダーバードが運行中止。東京経由で富山に入られた方。高速道路も封鎖の区間が出ていたようですが、それでも水行に臨む一心で、各地から駆けつけられた参加者の皆さま。国外からはヴェトナム人の初参加の方がおられると思えば、ドイツ人の方はギリギリまで迷いつつも、コロナ自粛でキャンセルを余儀なくされた方もおられました。まさに、国境を越えてグローバルに広がる「水行の和」。

水行ミソギの文化は、日本古来の伝統文化の1つです。【冬至水行祭・ほしまつり】という行事を通して、日本の伝統文化を伝承させて頂く一端にでもなれば幸せの極みです。

参加者の思いはそれぞれですが、その胸の中に秘めたる思いを『水行ミソギ』にベクトルを合わせておら

れる尊い気持ちに触れる度に、私は感動の念を抑えることができませ

ん。一緒に組んで水行に臨む経験は大きく、各地から単独で参加された見知らずの者同士が、あたかも数年前からの親友のようにご縁が結ばれていく姿に、私はそこに、人間の素晴らしさ、美しさを見ます。

●【皆で築く最高の祭事】

人は1人で生きている者などいません。互いに支え合い、サポートし合いながら、一歩踏み出す勇気を奮い起こして成長していきます。

こうやって、盛大に祭事を開催できるのは、参加者の皆さまがおられる事は勿論のことですが、裏方でご尽力いただくスタッフ実行委員の皆様のお陰様です。

●水行に使う御水をご提供くださる「どんかつや」の土居さま。●水行祭名物の巨大水盤を制作し、ご寄進くださった田中組の田中成敏さま。●悪天候の中、境内の設営にユニツクやトラックで乗り入れて水盤を運搬して下さる檀信徒スタッフの皆さま。●当日の朝食や昼食の準備片付けを手伝って下さる女性部の皆さま。●参加申込者を一覧表の名簿にまとめたり、受付業務を担当してくれている康太くん、薫さん。●水行の水を全身に浴びながら、最高の瞬間を捉えようと全力でシャッターを切って下さるカメラマンの柳原さん。●ビデオカメラマンの滝本さん。

●冬至水行祭・ほしまつりの信念を深くご理解いただき、ポスター作成、企画出しの打ち合わせなど、毎回長時間にもわたりお付き合いくださる桐井さん。

そして、●我がまま放題を受け止めて、開催に向けて微に入り細に入り、サポートしてくれる住職や母親、家族の面々。また友人僧侶の皆さま。

【冬至水行祭・ほしまつり】という祭事は、1人でも欠けたら開催する事ができません。スタッフ委員会の皆さま、水行にご参加頂く皆さま。みんなで円盛させた【第14回冬至 水行祭・ほしまつり】は、本当に最高の祭事となりました。皆さまお一人お一人に、心からの敬意と感謝を申し上げたいと思います。

●【届いた一枚のハガキ】

水行に臨まれた女性参加者の方から、おハガキを頂きました。

「お水を頂くことで、多くの気づきを得る事ができました。水の冷たさ痛さが、私がこの一年、他の人を傷付けてしまった痛みかもしれないと、自分を責めていましたが、寛敬様とお話しすることで、それを反省と感謝に切り変えることができました。多くの方々のご尽力にて水行ができたこと、感謝致します。」という様な内容でした。水行に臨まれたお一人お一人が、

何かご自分の中に芽生えた思いを大切に抱いて、今日の生きる糧にしていっていただければと心から祈念しています。

2022年の新しい年も、希望を胸に、皆様お揃いで良い一年に致しましょうね。

合掌 九拝

●【水行の勧めと3つの意義】

①生かされている命に気づく……「命の黄泉帰り(よみがえり、蘇り)」
《日本の伝統文化。人間の生死の起源。神代につながる禊の物語》

②心のみそぎ……「感謝」と「反省」
《天皇陛下自ら心身を清める「御禊(ごけい)」を行う》

③人格形成……魂という仏性明德(ぶつしようめいとく)を磨く
《穢れ(ケガレ)を水行(すいぎよう)で禊祓(みそぎばら)いする》

次期開催日の告知です。

【第15回冬至水行祭・ほしまつり】
令和4年12月18日(第3日曜日)
※今からスケジュールに入れといてくださいね。

【第15回冬至水行祭・ほしまつり】でも、素晴らしい皆さまと、お目にかかれたいことを、今から、心より楽しみにしています。

合掌 副住職 谷川寛敬



雪降る極寒の中、子供たちも良く頑張りました！

